

Canon

EOS *Kiss* 5



日本語

**J**

使用説明書

# キヤノン製品のお買い上げありがとうございます

EOS Kiss 5は、たいへんコンパクトなAF一眼レフカメラですが、簡単な全自動撮影から高度な応用撮影まで、さまざまな撮影状況に最適対応する豊富な機能を備えています。

ご使用になる前に、カメラを手に取りながら、この使用説明書をお読みになって理解を深め、各操作に慣れた上で正しくお使いください。

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、『取り扱い上のご注意』(→4)をお読みください。

この使用説明書は必要なときにいつでも取り出せる場所においてご活用ください。

## ご使用になる前の注意

- 結婚式や海外旅行など、大切な撮影をする前には必ず試し撮りをして、カメラが正常に作動することを確認してからお出かけください。
- EOSはキヤノンEFレンズとの間で、ピントや露出を調整するために専用の電子マウントを採用しています。他社製のレンズをEOSに使用すると、カメラまたはレンズが正常に作動しないことがありますのでご注意ください。  
また、EOSと他社製品の組み合わせ使用で生じた事故や故障につきましては保証いたしかねますのであらかじめご了承ください。

## 本使用説明書の操作説明上のお断り

- 本文中の $\langle \text{歯車} \rangle$ は電子ダイヤルを示しています。
- モードダイヤルが $\langle \text{OFF} \rangle$ 以外になっていることを前提に操作方法を説明しています。各操作をする前に、モードダイヤルを撮影モードにしてください。
- (→\*)の数字は参照ページを示しています。
- 本文中の操作ボタンや設定位置の説明にはボタンやダイヤル、マークなど、カメラに表示されている絵文字を使用しています。『各部の名称』(→8)を参照してください。
- (ⓘ4) / (ⓘ6)はボタンから指を離しても、その状態がタイマーによりそれぞれ4秒間 / 6秒間保持されることを示しています。

# 目次

本使用説明書の操作説明上のお断り .....	2
取り扱い上のご注意 .....	4
すぐ撮影したい方のために .....	6
各部の名称 .....	8

## 1 撮影前の準備 .....

13

撮影前の準備と基本操作について説明しています。

## 2 カメラまかせの全自動撮影 .....

21

すべてが自動設定されシャッターボタンを押せば、誰でもカメラまかせで撮影できます。

## 3 撮影目的にあわせた自在な応用撮影 .....

31

シャッター速度や絞り数値、露出補正、AEBなどを自分で任意に設定して、思いどおりに撮影することができます。

## 資料 .....

52

写真の基本用語や露出警告表示、撮影機能組み合わせなどについて説明しています。

### 本文中のマークについて



撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項が書かれています。



基本操作に加えて知っておいていただきたい事項や、カメラ操作上または撮影時のヒントが書かれています。

# 取り扱い上のご注意

## 手入れと保管について

- (1) カメラは精密機械です。落としたりショックを与えたりしないでください。
- (2) このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。万一、使用中に濡れてしまったときは、早めに最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。また水滴が付いたときは乾いたきれいな布で、潮風にあたったときは固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- (3) 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因となることがありますのでこのような中にカメラを放置しないでください。
- (4) カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に分解しないでください。
- (5) レンズ、ファインダー、ミラー、フォーカシングスクリーン、フィルム室内などにゴミが付いているときは、市販のブローブラシで吹き飛ばすだけにしてください。カメラおよびレンズは有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。
- (6) シャッター幕は非常に薄い幕でできています。お手入れには必ずブローラーを使用し、あまり強く吹かないでください。強く吹くとシャッター幕の変形や破損の恐れがあります。またフィルムを出し入れする際にもシャッター幕に触れないようご注意ください。
- (7) カメラの電気接点は手で触らないでください。腐蝕の原因となることがあります。腐蝕が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- (8) カメラを長期間使用しないときは、電池室から電池を抜き取り、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- (9) カメラの保管場所として実験室などのような薬品を扱う場所は、サビ・腐蝕などの原因になるため避けてください。同様にタンスの中なども避けてください。
- (10) 長期間使用しなかった後や、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を最寄りのキヤノンサービスセンター、またはご自身でチェックしてからご使用ください。






## 表示パネルについて

カメラの表示パネルやファインダー内表示は液晶を使用しています。液晶はその性質上、通常の使用でも表示が薄くなり読みにくくなることがあります。その場合は、最寄りのキヤノンサービスセンターで液晶の交換をご用命ください（有料）。なお、液晶の特性で低温下で表示反応がやや遅くなったり、60℃ぐらいの高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

## リチウム電池について

- (1) このカメラはCR2リチウム電池 2本を正しく入れて、はじめて作動します。次のようなときは、まず電池の容量を確認してください。（→14）
- 電池を交換したとき
  - 寒冷地で撮影するとき
  - 長期間カメラを使用しなかったとき
  - 大切な写真を撮るとき
  - シャッターが切れなくなったとき
- (2) 電池をカメラに入れるときは、電池の接点の汚れや指紋などをよくふき取ってください。そのまま入れると接触不良や腐蝕の原因となることがあります。
- (3) 電池の分解や充電、高温下での放置、および接点をショートさせたり火の中に投げ入れることは、危険ですので絶対にしないでください。
- (4) リチウム電池は低温特性にも優れていますが、0℃以下ではやや電池の性能が低下します。寒冷地でご使用になるときは予備の電池を用意し、ポケットなどに入れて保温しながら交互に使用することをおすすめします。

## 電圧の低下とカメラの作動について

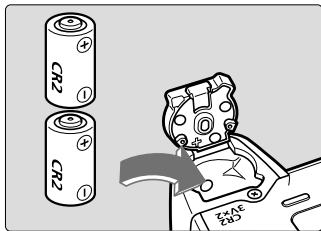
表示パネルの〈〉が点滅または無表示になっても、シャッターが切れれば適正な写真が撮影されます。ただし、電池の容量が低下してくると、自動巻き上げや自動巻き戻しができないことがあり、表示パネルに〈〉が点滅します。新品の電池に交換すると、フィルムの巻き上げは継続され、フィルムの巻き戻しは〈〉ボタンを押し直せば継続されます。

## レンズの接点について

レンズを外したときは、接点やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

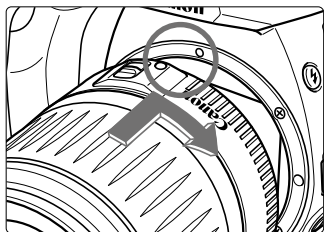


# すぐ撮影したい方のために



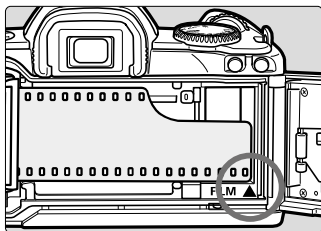
## 1 電池を入れる

電池室ふたの表示にしたがってCR2リチウム電池を2本入れます。(→14)



## 2 レンズを取り付ける

レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。(→16)



## 5 フィルムを入れる

フィルムの先をく▲マークに合わせ、「パチン」と音がするまで背ぶたを閉じます。(→18)

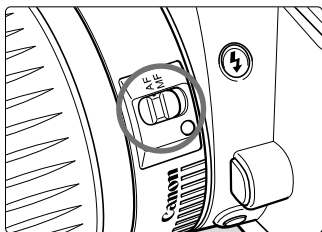
- フィルムは最初の撮影コマまで巻き上げられます。



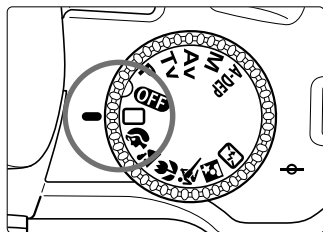
## 6 ピントを合わせる

写したいもの(被写体)にAFフレームを合わせ、軽くシャッターボタンを押して、ピントを合わせます。(→22)

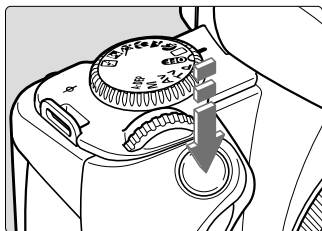
- 暗いときや日中逆光時には、内蔵ストロボが自動的に上がります。(→49)



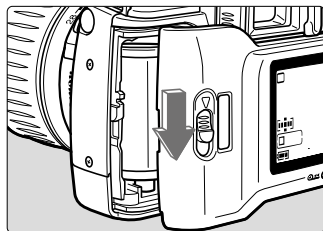
- 3** レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする  
(→16)



- 4** モードダイヤルを〈OFF〉(全自動)にする  
(→22)



- 7** 撮影する  
さらにシャッターボタンを押して撮影します。(→17)

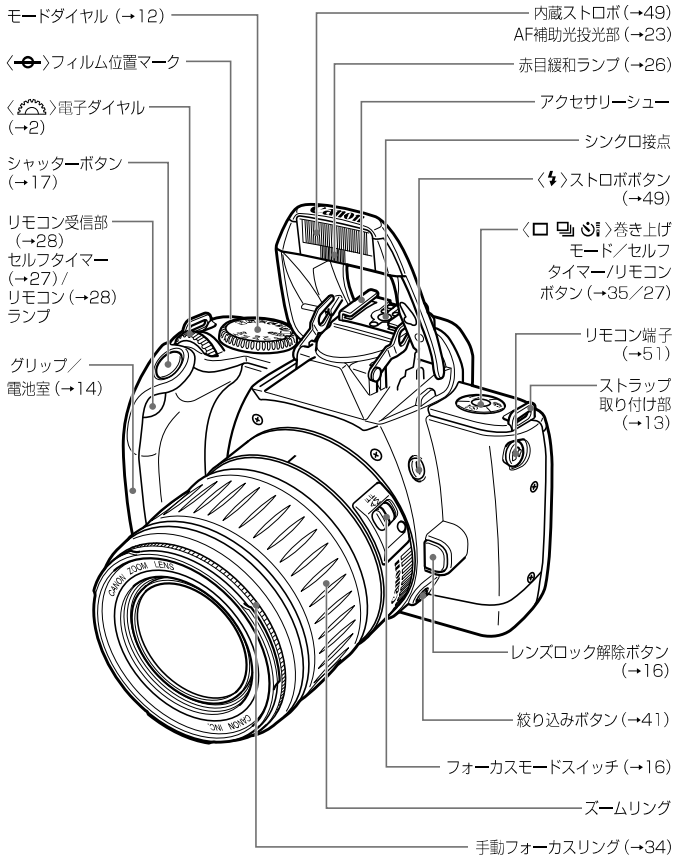


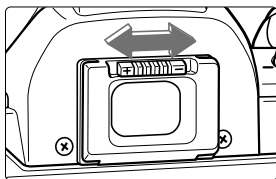
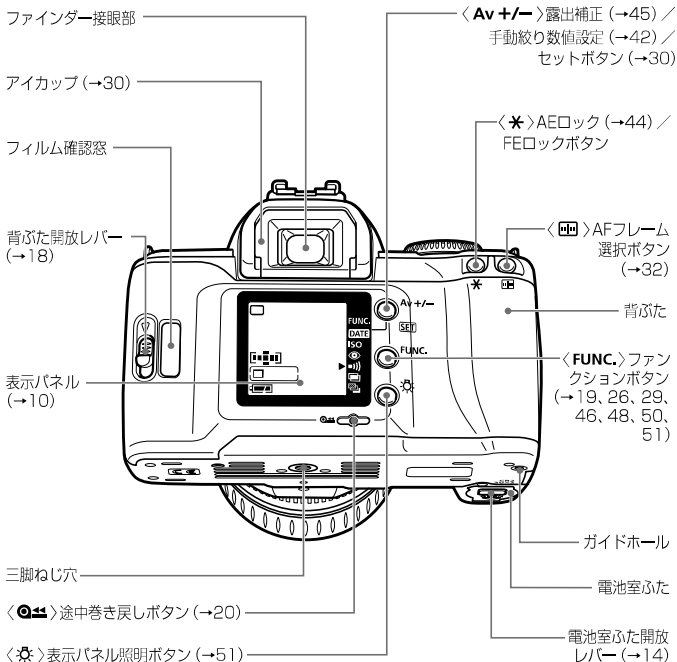
- 8** フィルムを取り出す  
フィルムを撮り終わると自動的に巻き戻しが始まります。背ぶたを開けてフィルムを取り出します。(→19)

# 各部の名称

● (→\*) の数字は参照ページを示しています。

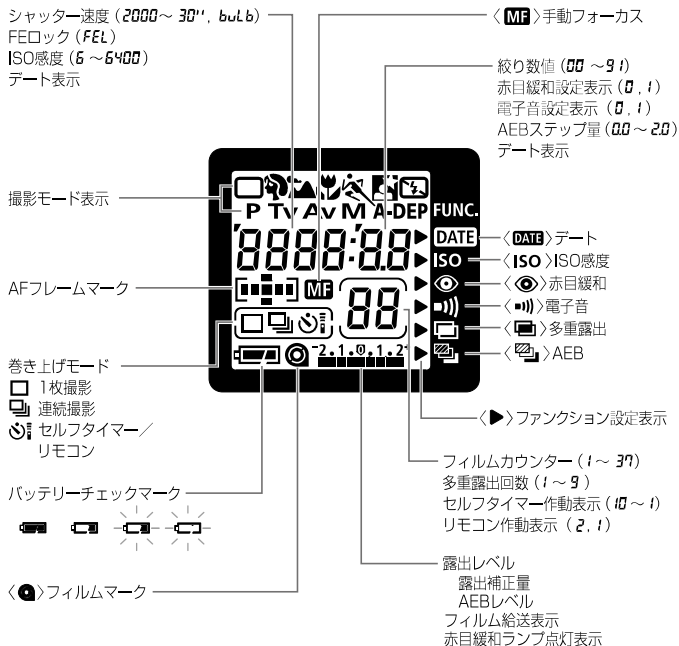
● 本文では各部の操作を〈 〉内のマークを用いて説明しています。





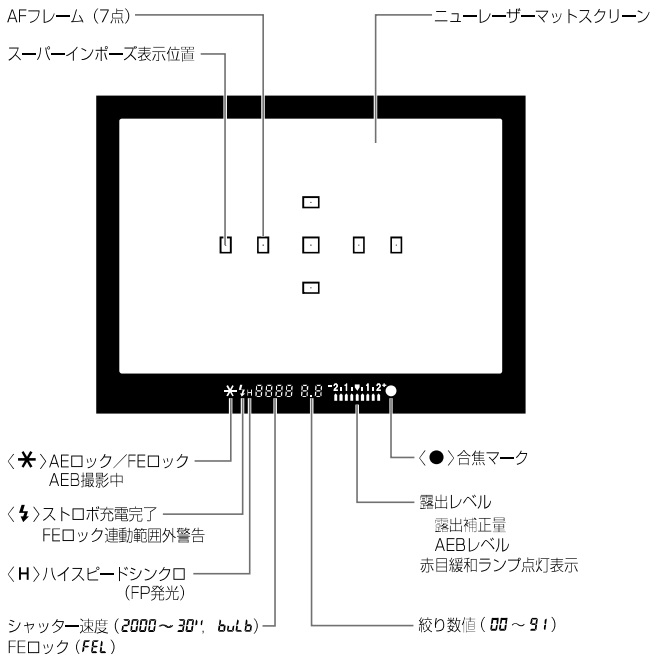
アイカップを取り外したあと、視度調整レバーを左右にスライドさせて、ファインダー内のAFフレームが最も鮮明に見えるようにします。調整範囲は $-2.5 \sim +0.5$ dptです。

## 表示パネル



● 図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

## ファインダー内表示

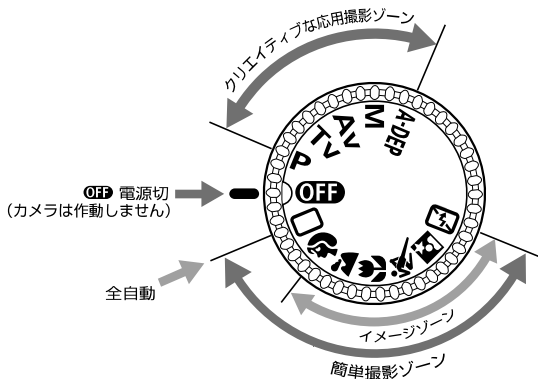


● 図はすべてを表示したものです。実際には状況に応じた部分のみ表示されます。

## 各部の名称


### モードダイヤル

- モードダイヤルは3つの機能ゾーンに分けられています。



#### ① 簡単撮影ゾーン


基本操作はシャッターボタンを押すだけです。

 : 全自動 (→22)


カメラまかせの全自動撮影ができます。


**イメージゾーン** (→24)


被写体別にカメラまかせの全自動撮影ができます。


 : ポートレート

 : 風景

 : クローズアップ

 : スポーツ

 : 夜景ポートレート

 : ストロボ発光禁止

#### ② クリエイティブな応用撮影ゾーン

思い通りのさまざまな撮影ができます。

**P** : プログラムAE (→36)

**Tv** : シャッター優先AE (→38)

**Av** : 絞り優先AE (→40)

**M** : マニュアル露出 (→42)

**A-DEP** : 自動深度優先AE (→43)

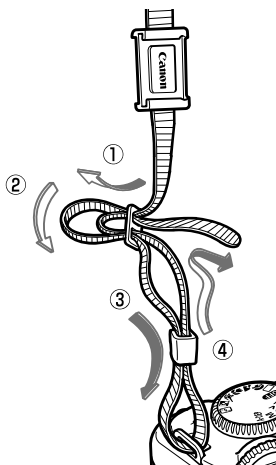
#### ③ **OFF** : 電源切



# 撮影前の準備

# 1

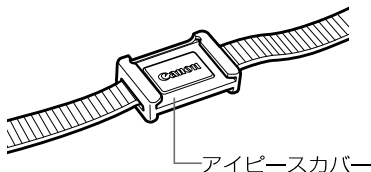
電池のセットと容量の確認	14
レンズを取り付ける・取り外す	16
シャッターボタンとオートフォーカス	17
📷 フィルムを入れる・取り出す	18
🔄 途中巻き戻し	20
カメラの構え方	20



## ストラップ(吊りひも)の取り付け方

ストラップの先をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている止め具の内側を通します。ストラップを引っぱっても止め具の部分でゆるまないことを確認してください。

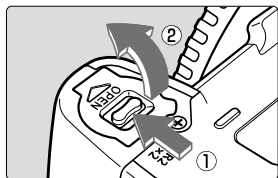
- ストラップにはアイピースカバーが付いています。



# 電池のセットと容量の確認

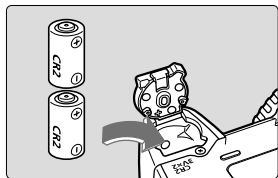
## セットする

電池はCR2リチウム電池を2本使用します。



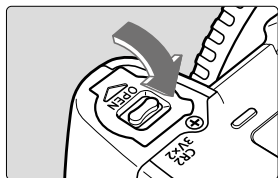
### 1 ふたを開く

- 電池室ふた開放レバーを矢印の方向にスライドさせて電池室ふたを開きます。




### 2 電池を入れる

- 表示にしたがって「+」「-」をまちがえないように電池を入れます。
- 古い電池と新しい電池をまぜて使わないでください。



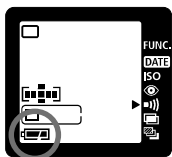
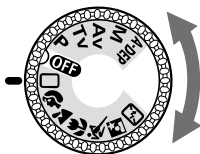
### 3 ふたを閉じる

- 「カチッ」と音がするまで電池室ふたを押します。
- 初期状態では日付／時刻が設定されていません。30ページを参照して日付／時刻を設定してください。

 地域によっては電池の入手が困難なことがあります。海外旅行に出かけるときや、写真をたくさん撮るときは、予備の電池を用意してください。

## 容量を確認する


電池を交換したときや撮影の前などには、電池の容量を確認してください。




## モードダイヤルを撮影モードにする

- 電源が入り表示パネルにバッテリーチェックマークが表示されます。

 : 電池の容量は十分です。

 : 電池の残量が少なくなっています。新しい電池を用意して下さい。

 : もうすぐ電池切れになります。

 : 新しい電池と交換してください。  
(→5)

## 撮影可能フィルム本数 (24枚撮りフィルム)

[本]

温度	ストロボ撮影なし	50%ストロボ撮影	全てストロボ撮影
常温 (+20℃)	67	30	22
低温 (-10℃)	44	20	15

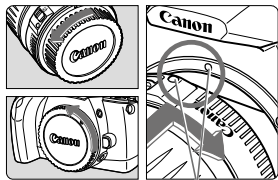
- 撮影本数は新品電池使用、当社試験条件による本数です。

- 表示パネルに何も表示されない場合は、電池が逆向きに入っていることが考えられます。正しい向きに入れ直してください。(→14)
- シャッターボタン半押しの状態を長く続けたり、AFのみを行って撮影しないという操作を頻繁に行うと、撮影本数が少なくなります。

- カメラを使用しないときは、不用意な作動をさけるため、モードダイヤルを **<OFF>** にしてください。

# レンズを取り付ける・取り外す

## 取り付け方



レンズ取り付け指標

### 1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。

### 2 レンズを取り付ける

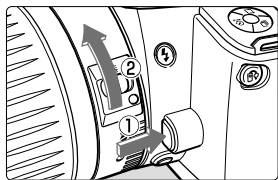
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

### 3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈MF〉(または〈M〉) になっていると、オートフォーカスできません。そのときは表示パネルに〈MF〉が表示されます。

### 4 レンズキャップを外す

## 取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- レンズ取り付け指標が真上になるまで回してから、取り外します。



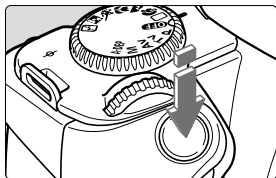
- 外したダストキャップ、ボディキャップ、レンズキャップはなくさないように保管してください。
- AFはAuto Focus(オートフォーカス)の略で自動焦点のことです。
- MF, MはManual Focus(マニュアルフォーカス)の略で手動焦点のことです。

# シャッターボタンとオートフォーカス

EOSのシャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで軽く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで押すことを「全押し」といいます。

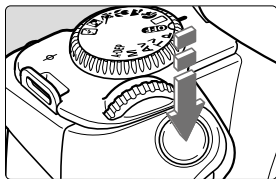
## シャッターボタンの半押しと全押し

シャッターボタンは次のような働きをします。



### 半押し

- オートフォーカス (AF/自動焦点) が働き、写したいもの (被写体) にピントが合うとピントを合わせたAFフレーム内が一瞬赤く光り、「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に合焦マーク (●) が点灯します。
- 同時にシャッター速度と絞り数値の組み合わせ (露出) が決まり、表示パネルとファインダー内に表示されます。



### 全押し

- シャッターが切れて撮影が行われ、自動的にフィルムが巻き上げられます。

⚠ エクステンダーを併用したときの開放絞り数値がF5.6を超えるレンズでは、AF撮影できません。



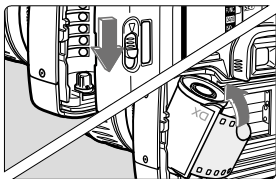
シャッターが切れる瞬間にカメラが動くことを「手ブレ」といい、全体がぼけたような写真になります。鮮明な写真を撮るために (→20) 次の点に注意してください。

- ・カメラが動かないようにしっかり構えてください。
- ・シャッターボタンに指の腹をかけ、カメラ全体を握るような感じで、静かに押します。

# ◎フィルムを入れる・取り出す

## 入れる

フィルムを入れると一度フィルムを全部巻き取り、撮影のたびに1コマずつ巻き戻していきます。フィルム感度はDXコードにより自動設定されます。フィルムカウンターには常に残っているフィルムの枚数が表示されます。

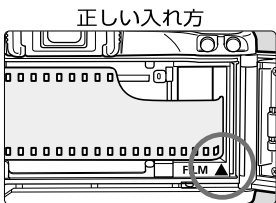


1 モードダイヤルをく**OFF**以外にする

2 背ぶたを開く

- 背ぶた開放レバーを下げて背ぶたを開きます。

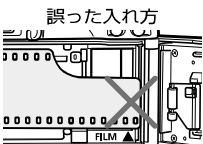
3 フィルムを図のように少し斜めにして入れる



正しい入れ方

4 フィルムの先端をく**▲**マーク(フィルム先端指標)に合わせる

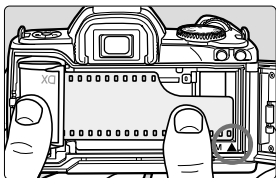
- パトローネ(フィルム容器)を押さえながらフィルムを引き出します。
- フィルムを引き出し過ぎたときはパトローネ内に少し巻き戻します。



誤った入れ方

5 背ぶたを閉じる

- フィルムの先端がく**▲**マークに合っていることを確認して、背ぶたを「パチン」というまで閉じます。
- ➔ フィルムの巻き取りが始まり、フィルムカウンターの数字が増えていきます。最後にシャッターが切れるような音がして、表示パネルにく**◎**と撮影できるフィルムの枚数が表示されます。
- ➔ フィルム巻き取り中は表示パネルにISO感度が表示されます。



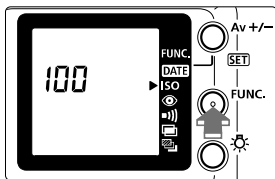
- シャッター幕は非常に高い精度で加工されています。絶対に手を触れないでください。また、フィルムを入れる際に誤って指やフィルムでシャッター幕を破損・変形させないように十分にご注意ください。
- 高温・高温環境下で撮影する場合、フィルムはカメラに入れる直前に梱包から取り出してください。

- フィルムが正しくセットされないと、表示パネルのく●が点滅し、シャッターが切れません。フィルムを正しく入れ直してください。(→18)
- フィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合や、DXコードが付いていないフィルムを使用する場合は、『フィルム感度の手動設定』(→50)を参照してください。
- 赤外フィルムは使用できません。

## 感度の設定確認

フィルム感度は、カメラがフィルムのDXコードを読み取ることにより自動設定されます。自動設定されるフィルム感度の範囲は、ISO 25～5000です。

- モードダイヤルを応用撮影ゾーンにします。

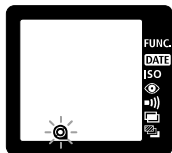


〈FUNC.〉ボタンを押して、〈▶〉マークを〈ISO〉に合わせる

- ➡ 表示パネルにフィルム感度が表示されます。

## 取り出す

フィルムの最後のコマを撮影すると自動的に巻き戻しが始まります。

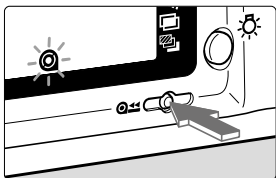


巻き戻しが終わると、シャッターが切れるような音がしたあと、表示パネルにく●だけが点滅します。表示を確認して背ぶたを開けフィルムを取り出します。

## 📷 フィルムを入れる・取り出す

### 📷🔄 途中巻き戻し

フィルムを撮り終える前に取り出すときは次のようにします。



#### 1 <📷🔄> ボタンを押す

➡ フィルムの巻き戻しが始まります。

#### 2 フィルムを取り出す

● 表示パネルの<📷>が点滅していることを確認してから取り出します。

📷 撮影の途中で巻き戻し操作をせずにフィルムを取り出したあと、続けて新しいフィルムをセットし、シャッターボタンを全押しすると、フィルムがパトローネに巻き取られてしまいます。一度背ぶたを閉じて、空撮りしてから新しいフィルムをセットしてください。

## カメラの構え方

鮮明な写真を撮るために、カメラが動かないようしっかりと構えて撮影します。



横位置



縦位置



- カメラのグリップを右手で包むようにしっかりと握り、ひじを軽く体につけます。
- 左手でレンズ部を下から支えるように持ちます。
- カメラを顔に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。
- 両足はそろえずに片足を軽く踏み出して体を安定させます。

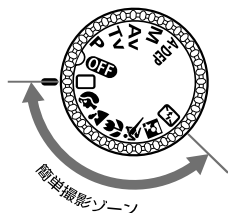


# カメラまかせの全自動撮影

# 2

□ 全自動で撮る	22
内蔵ストロボによるAF補助光について	23
イメージに合わせて撮る	24
👤 ポートレート / 🏞️ 風景 / 🌸 クローズアップ	
🏃 スポーツ / 🌃 夜景ポートレート / 🚫 ストロボ発光禁止	
👁️ 赤目緩和機能を使う	26
🕒 セルフタイマーを利用して撮る	27
📶 ワイヤレスリモコンを使って撮る	28
📅 DATE 日付／時刻を入れて撮る	29
🔊 アイピースカバーを使う	30

簡単撮影ゾーンでは、すべてが自動設定され、シャッターボタンを押せば、誰でもカメラまかせで撮影できます。

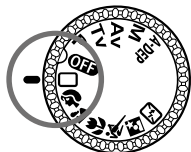


モードダイヤルを<□>、<👤>、  
<🏞️>、<🌸>、<🏃>、<🌃>、<🚫>  
にする

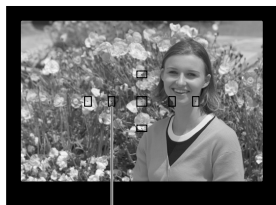
●撮影の手順は『□ 全自動で撮る』(→ 22)と同じです。

# □ 全自動で撮る

シャッターボタン以外の操作をする必要がなく、どんな被写体でも安心して気軽に撮ることができます。7つのAFフレームで被写体をとらえますので、誰でも簡単にきれいな写真が写せます。



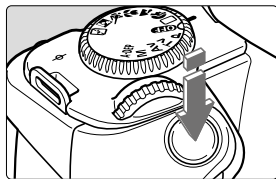
## 1 モードダイヤルを「□」にする



AFフレーム

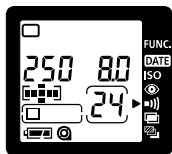
## 2 被写体にAFフレームを合わせる

- カメラが主被写体と判断したAFフレームでピントを合わせます。
- 7つのAFフレームから外れている被写体にピントを合わせるときは、『画面の端の被写体にピントを合わせる』(→ 33)を参照してください。



## 3 ピントを合わせる

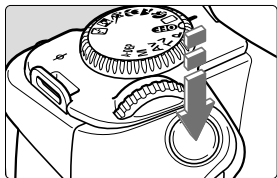
- シャッターボタンを半押しして、ピントを合わせます。
- ➡ 必要に応じて内蔵ストロボが自動的に上がります。
- ➡ ピントが合うとピントを合わせたAFフレーム内が一瞬赤く光り、「ピピッ」と電子音が鳴り、ファインダー内右下に合焦マーク(●)が点灯します。



## 4 表示を確認する

- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。

250 8.0 ●



## 5 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

⚠ 誤ってストロボの自動ポップアップを阻害した場合は、表示パネルの $\langle \square \rangle$ が点滅して警告します。そのときは、シャッターボタンを半押しすると正常に戻ります。

- AFでピントが合うと同時に、ピントと露出はロックされます。
- 合焦マーク $\langle \bullet \rangle$ が点滅するときは、撮影できません。(→34)
- 7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、原則としてもっとも近距離にある被写体に、自動的にピントが合います。
- AFフレーム内が複数同時に赤く光ることがあります。そのときは、赤く光ったAFフレームでとらえたすべての位置にピントが合っています。
- 単眼撮影ゾーン ( $\langle \text{山} \rangle$ 、 $\langle \text{鳥} \rangle$ 、 $\langle \text{魚} \rangle$ ) を除く) では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。収納するときは手で押し下げます。内蔵ストロボに関しては、『内蔵ストロボ撮影』(→49)を参照してください。
- 単眼撮影ゾーンでは、フィルムの巻き上げ方式(1枚撮影/連続撮影)が撮影モードに応じて自動設定されます。詳しい内容は『撮影機能組み合わせ一覧』(→54)を参照してください。

## 内蔵ストロボによるAF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、内蔵ストロボが連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- $\langle \text{山} \rangle$ 、 $\langle \text{鳥} \rangle$ 、 $\langle \text{魚} \rangle$  では、AF補助光は光りません。
- 内蔵ストロボによるAF補助光によってピントが合う範囲は約4mまでです。
- 応用撮影ゾーンでは、 $\langle \text{閃} \rangle$  ボタンを押してストロボを上げておくと、必要に応じてAF補助光が光ります。

# イメージに合わせて撮る

撮影目的に応じたモードを選ぶだけで、効果的な写真を簡単に撮影することができます。

## ポートレート



背景をぼかして人物を浮き立たせた写真を撮るようなときに使用します。

- シャッターボタンを押し続けると連続撮影になります。
- 望遠レンズを使用し、人物の上半身がファインダーいっぱいになるくらいにすると、背景を効果的にぼかすことができます。また被写体をできるだけ背景から離すとより効果的です。

## 風景



広がりのある風景や夜景などを撮るようなときに使用します。

- 広角レンズを使用すると、近くから遠くまでの奥行きに加えて、横の広がりも表現することができます。

## クローズアップ



草花や昆虫などを大きく撮るようなときに使用します。

- できるだけ使用レンズの最短撮影距離まで被写体に近づいて撮影すると効果的です。
- ズームレンズの場合は、望遠側にすると被写体をさらに大きく撮影することができます。
- 本格的なクローズアップ撮影には別売のEOS専用マクロレンズとマクロストロボの使用をおすすめします。

## 🏊 スポーツ



スポーツや運動会などで、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮るようなときに使用します。

- はじめに中央のAFフレームで被写体をとらえます。その後、7つのAFフレームのいずれかで被写体をとらえていればピントを合わせ続けます。なお、ピントが合うと電子音が小さく鳴ります。
- シャッターボタンを押し続けると被写体にピントを合わせ続け、連続撮影になります。
- 望遠レンズ、ISO400以上の高感度フィルムの使用をおすすめします。

## 🌃 夜景ポートレート



夕暮れや夜景を背景にした人物を撮影するときに使用します。人物にはストロボ光があたり、背景は遅いシャッター速度でそれぞれをきれいに撮影することができます。

- 人物が入らない夜景のみを撮影するときは <🌃> で撮影してください。
- ストロボが発光してもすぐに動かないように、写真を撮られる人に声をかけてください。
- セルフタイマー(→27)を併用した時は、セルフタイマーランプが一瞬光って撮影終了を示します。

## 🚫 ストロボ発光禁止



美術館など、ストロボ撮影が禁止されている場所や、自然光を生かした雰囲気のある写真を撮影するときに使用します。

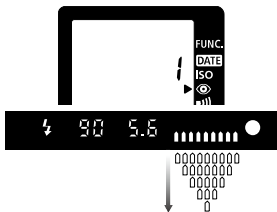
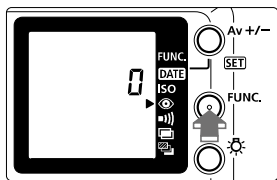
- 内蔵ストロボ、EOS専用外部ストロボ使用時ともに発光しません。



<📷>では、手ブレを防ぐために必ず三脚を使用してください。また、<🌃>、<🚫>でシャッター速度が点滅したときは手ブレにご注意ください。

## 👁️ 赤目緩和機能を使う (内蔵ストロボ使用時)

夜や暗い室内などで人物をストロボ撮影したときに目が赤く写ることがあります。これを「赤目現象」といい、ストロボの光が目の網膜に反射して起こります。赤目緩和機能を使うと、ストロボ撮影するときに目にやさしい赤目緩和ランプが点灯し、写る人のひとみを小さくして赤目現象を起こりにくくします。赤目緩和機能は<📷>、<📷>、<📷>以外のすべての撮影モードで機能します。



赤目緩和ランプ  
点灯表示

### 1 <▶>マークを<👁️>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(🔁6)

### 2 表示を「!」にする

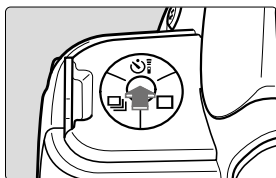
- <🔧>を回して、設定します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。
- 撮影準備状態に戻ったあと、シャッターボタンを半押しすると、表示パネルとファインダー内に赤目緩和ランプ点灯表示が行われます。
- 解除するときは、表示を「📷」にします。



- 写される人がランプを注視していないと効果がありませんので、写される人がランプを見るように声をかけてください。
- 効果的な赤目緩和撮影のためには、約1.5秒間の赤目緩和ランプ点灯表示が消えてからシャッターボタンを全押ししてください。
- 赤目緩和ランプ点灯中でも、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。
- 赤目緩和効果の度合いには個人差があります。
- 室内を明るくしたり、写したい人に近づくとより効果的です。

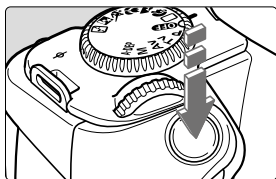
# 🕒 セルフタイマーを利用して撮る

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも使えます。セルフタイマー撮影をするときは三脚をお使いください。



## 1 表示パネルに🕒を表示させる

- <📷 📷 🕒 > ボタンを押して🕒を表示させます。
- もう一度<📷 📷 🕒 > ボタンを押すか、モードダイヤルを<OFF > にすると、セルフタイマーの設定は解除されます。



## 2 撮影する

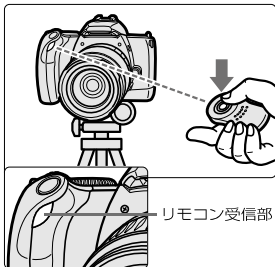
- 撮影の手順は『📷 全自動で撮る』(→22)と同じです。
- ファインダーをのぞきながらシャッターボタンを全押しします。
- ➡ シャッターボタンを全押しすると、電子音が鳴り、10秒後に撮影されます。  
最初の8秒間：ゆっくりピッ、ピッ音  
／セルフタイマーランプ遅い点滅  
最後の2秒間：早くピピピピ音  
／セルフタイマーランプ早い点滅
- ➡ セルフタイマー作動中は、表示パネルにシャッターが切れるまでの秒数が減算で表示されます。

🚫 レンズの前に立ってシャッターボタンを押すと、ピンボケ写真の原因となることがあります。

- セルフタイマーの作動を途中で解除するときは、もう一度<📷 📷 🕒 > ボタンを押してください。
- 自分一人だけをセルフタイマーで撮るときは、自分が入る位置とほぼ等しい距離にあるものにフォーカスロック(→33)してから撮影します。

# ワイヤレスリモコンを使って撮る

リモートコントローラー RC-5を使用すると、カメラの正面から約5m離れて撮影できます。



## 1 表示パネルにく①を表示させる

- く① ボタンを押して く① を表示させます。

## 2 撮影する

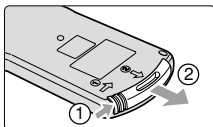
- 送信部をカメラのリモコン受信部に向けて送信ボタンを押します。
- 約2秒後に撮影されます。
- 作動表示はセルフタイマーの最後の2秒と同じです。

⚠ 蛍光灯が近くにあると、蛍光灯の種類によってカメラが誤作動することがあります。できるだけカメラを蛍光灯から離してください。

🔋 く① に設定してから約4分間放置すると、省電力のためリモコンの設定は自動的に解除されます。

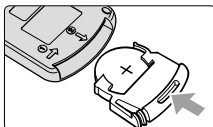
## RC-5の電池交換

送信ボタンを押しても撮影できなくなったら、新しい電池に交換してください。電池はCR2032リチウム電池を1個使用します。



## 1 電池ホルダーを外す

- ①ホルダーの左側の爪を内側へ押しながら、②引き出して外します。



## 2 電池を入れ換えてホルダーを入れる

- +-を正しくあわせて入れます。



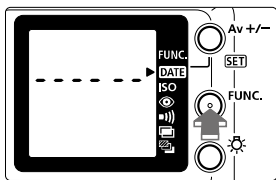
# DATE 日付／時刻を入れて撮る



日付／時刻は上の写真のように画面の右下に写し込まれます。

このカメラには2099年までのオートカレンダーが組み込まれたデート機能がついています。撮影と同時に日付や時刻を、左に示す写真の位置に写し込むことができます。なお、日付／時刻を写し込まないようにすることもできます。

日付／時刻は簡単撮影ゾーンでも応用撮影ゾーンでも写し込むことができます。

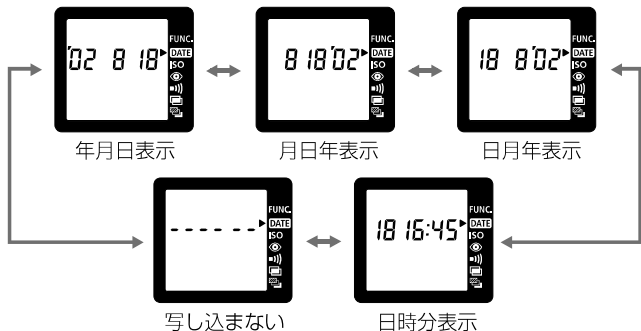


## 1 <▶>マークを<DATE>に合わせる (06)

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。
- 日付／時刻の設定が行われていないときは、「-----」が点滅します。30ページを参照して日付/時刻を設定してください。

## 2 デートを選ぶ

- <🕒>を回します。
- ➔デート表示が次のように変わります。



## DATE 日付／時刻を入れて撮る

### 日付／時刻を設定する

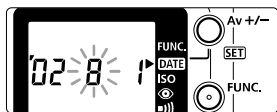
#### 1 <▶>マークを<DATE>に合わせる

→日付／時刻が設定されていない状態では、「.....」が点滅します。



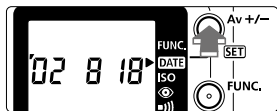
#### 2 修正する数字を点滅させる

- <SET>ボタンを押します。
- 設定位置は年→月→日→時→分→「:」の順に変わります。



#### 3 正しい数字を設定する

- <◀>を回します。
- 手順2、3を繰り返してすべての日付／時刻を設定します。



#### 4 日付／時刻の設定を終了する

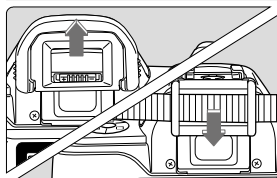
- 点滅している数字がなくなるまで<SET>ボタンを押します。
- 「:」点滅で<SET>ボタンを押したときがゼロ秒になります。

🚫 日付／時刻が点滅した状態で撮影すると、写真に写し込まれません。

📅 設定した日付／時刻は、カメラの電池を抜いても約10分間記憶されています。

### アイピースカバーを使う

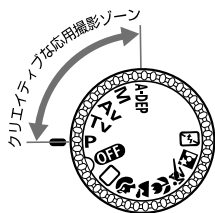
セルフタイマーやリモコンを使うときなど、ファインダーから目を離れた状態で撮影すると、ファインダーから入った光によって露出が変わることがあります。それを防ぐため、ファインダー接眼部にアイピースカバー(→13)を取り付けてください。



#### 1 アイカップを取り外す

#### 2 アイピースカバーを接眼部に取り付ける

☐ AFフレームの選択	32
画面の端の被写体にピントを合わせる	33
AFの苦手な被写体	34
☐ 巻き上げモードの選択	35
測光方式について	35
<b>P</b> : プログラムAEで撮る	36
<b>Tv</b> : シャッター速度を決めて撮る	38
<b>Av</b> : 絞り数値を決めて撮る	40
被写界深度を確認する	41
<b>M</b> : 自分で露出を決めて撮る	42
<b>A-DEP</b> : ピントの合う範囲を決めて撮る	43
✳ 露出を固定して撮る / AEロック撮影	44
<b>Av +/-</b> : 自分の好みに露出を補正する	45
☑ 露出を自動的に変えて撮る / AEB撮影	46
長時間露光 (バルブ) 撮影	47
☑ 多重露出撮影	48
内蔵ストロボ撮影	49
<b>ISO</b> : フィルム感度の手動設定	50
🔊 カメラの電子音を消す	51
☀ 表示パネルを照明する	51
リモートスイッチを使って撮る	51



応用撮影ゾーンではシャッター速度や絞り数値を選択して露出を自分の好みに変えるなど、思い通りのさまざまな撮影をすることができます。

- AFフレームの選択、巻き上げモードの選択、AEロック、露出補正、AEB、多重露出、被写界深度確認は応用撮影ゾーンで機能します。

## AFフレームの選択

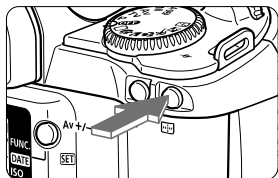
AFフレームとはピントを合わせる枠のことをいいます。AFフレームの選択方式には自動選択と任意選択があります。簡単撮影ゾーン、および〈A-DEP〉では自動選択になりますが、〈P〉、〈Tv〉、〈Av〉、〈M〉の各撮影モードでは、自動選択と任意選択を切り換えることができます。

### 自動選択

撮影状況に応じてカメラが自動的にAFフレームを選択してピントを合わせます。

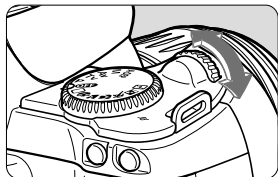
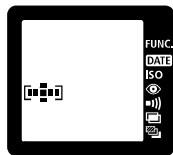
### 任意選択

7つのAFフレームから、任意の1点を手動で選択します。狙った被写体に確実にピントを合わせたい場合や、より構図優先の迅速なAF撮影を行いたい場合に便利な機能です。




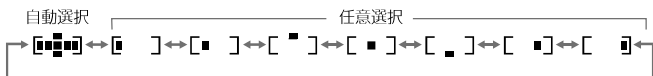
#### 1 〈〉ボタンを押す (α6)

- ➡ 現在選択されているAFフレームが点灯します。



#### 2 AFフレームを選択する

- 表示パネルまたはファインダー内のスーパーインポーズ表示を見ながら〈〉を回し、以下のように循環するAFフレームの中から希望する状態を選択します。
- シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。



# 画面の端の被写体にピントを合わせる

7つのAFフレームに入らない、画面の端の被写体にピントを合わせて撮影するときは、次のようにします。この方法をフォーカスロック撮影といいます。

## 1 AFフレームを選択する(→32)



## 2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。

## 3 シャッターボタンを半押ししたまま構図を変える



## 4 撮影する



簡単撮影ゾーンでもフォーカスロック撮影ができます(〈~~変~~〉を除く)。そのときは手順2から行います。

# AFの苦手な被写体


このカメラは精度の高いAFシステムを搭載し、ほとんどの被写体にピントを合わせることができます。ただし、次のような特殊な被写体に対しては、ピント合わせができない(合焦マーク<●>が点滅する)ことがあります。

## ピントが合いにくい被写体

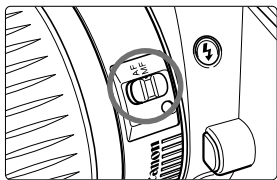
- コントラスト(明暗差)が極端に低い被写体…… 例：青空、単色の平面
- 非常に暗い場所にある被写体
- 極端な逆光状態で、かつ光の反射が強い被写体 … 例：反射光の強い車のボディ
- 被写体が遠くと近くに共存する状態 …………… 例：おりの中の動物

これらの被写体を撮影する場合は、次のいずれかの方法でピントを合わせます。

- (1) 被写体とほぼ同じ距離にあるものでフォーカスロックし、構図を決め直して撮影する。
- (2) レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>(または<M>)にして手動でピント合わせを行う。

 EOS専用外部ストロボのAF補助光でピントが合わない場合は、中央のAFフレームを選択してください。

## MF 手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)




### 1 レンズのフォーカスモードスイッチを<MF>(または<M>)にする

→表示パネルに<MF>が表示がされます。

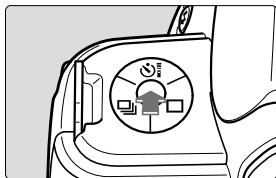
### 2 ピントを合わせる

- ファインダー内の被写体をはっきり見えるまで、レンズの手動フォーカスリングを回します。

 シャッターボタンを半押ししながら手動ピント合わせをすると、ピントが合ったAFフレーム内が一瞬赤く光り、合焦マーク<●>が点灯します。

## □ □ 巻き上げモードの選択

フィルム巻き上げには1枚撮影と連続撮影の2つの方式があります。



### 〈□ □ 〉ボタンを押す

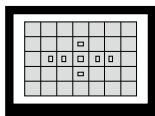
- 表示パネルに〈□〉(1枚撮影)または〈□ 〉(連続撮影)を表示させます。
- 〈□ □ 〉ボタンを押すたびに次のように循環します。



- 連続撮影速度は約2.5コマ/秒です。

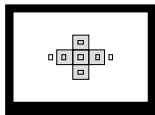
## 測光方式について

測光方式には、評価測光、部分測光、中央部重点平均測光の3つの方式があります。評価測光が標準の測光方式となっています。部分測光はAEロック撮影時(→44)に、中央部重点平均測光は〈M〉モード時(→42)に、それぞれ自動設定されます。



### 評価測光

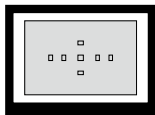
逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。ファインダー視野を35分割して、7つのAFフレームそれぞれに連動した評価測光を行います。ファインダー内に占める被写体の位置、明るさ、背景、順光、逆光など複雑な光の要素をカメラの構え方に応じてカメラが判断し、主被写体を常に適正な露出にします。



### 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光がある場合の撮影に有効です。ファインダー中央部の約9.5%の範囲を測光します。

- 部分測光の測光範囲はほぼ左図の範囲となります。



### 中央部重点平均測光

ファインダー中央部に重点を置いて画面全体を平均的に測光します。

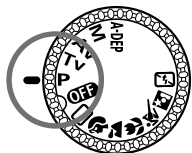
ワンショットAFおよびAIフォーカスAF(AIサーボAF時を除く)の場合(→55)、シャッターボタンを半押しして被写体にピントが合うと同時に自動的に露出が固定されます。

# P:プログラムAEで撮る

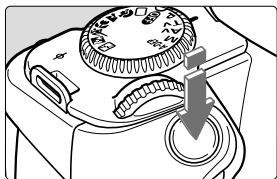


◁□▷(全自動)と同じように気軽に撮影することができます。被写体の明るさに応じてカメラがシャッター速度と絞り数値を自動設定します。これをプログラムAEといいます。

- \* Pは、Program (プログラム) の略です。
- \* AEは、Auto Exposure (オートエクスポージャー) の略で自動露出のことです。

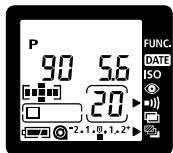


## 1 モードダイヤルを◁P▷にする



## 2 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

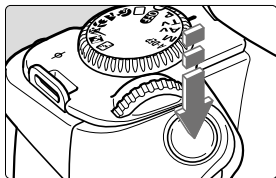


## 3 表示を確認する

- ➡ シャッター速度と絞り数値が自動的に決まり、ファインダー内と表示パネルに表示されます。
- シャッター速度と絞り数値が点滅していなければ、適正露出です。
- 点滅したときは『露出警告表示一覧表』(→53)を参照してください。







## 4 撮影する


- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。



### 〈P〉と〈O〉(全自動)の違い

- 〈P〉と〈O〉は、自動的に決まるシャッター速度と絞り数値の組み合わせは同じです。
- 〈P〉では次の機能を使用できますが、〈O〉ではできません。
  - AFフレームの任意選択
  - AEB
  - 巻き上げモードの選択
  - 被写界深度確認
  - プログラムシフト
  - 多重露出
  - 〈\*〉ボタンによるAEロック
  - 内蔵ストロボの常時発光／発光禁止
  - 露出補正

### プログラムシフトについて

- プログラムAEは自動的に設定されたシャッター速度と絞り数値の組み合わせ(プログラム)を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
- プログラムシフトはシャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッター速度または絞り数値が表示されるまで〈〉を回して行います。
- プログラムシフトは撮影後、自動的に解除され元のプログラムに戻ります。
- ストロボを使用するとプログラムシフトはできません。

# Tv:シャッター速度を決めて撮る

シャッター速度を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これをシャッター優先AEといいます。シャッター速度を速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえた写真を撮ることができ、シャッター速度を遅くすると流動感を表現することができます。

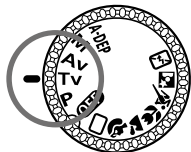
\*Tvは、Time value (タイムバリュー)の略で時間量のことです。



速いシャッター速度



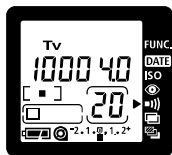
遅いシャッター速度



## 1 モードダイヤルを<Tv>にする

## 2 シャッター速度を設定する

- 表示パネルを見ながら<☀>を回して設定します。



## 3 ピントを合わせる


- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 絞り数値が自動的に決まります。

1000 4.0 2.1, 1.7, 1.2\*


## 4 表示を確認して撮影する

- 絞り数値が点滅していなければ適正露出です。



- 使用レンズの一番小さな絞り数値（最大口径／開放絞り）が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。絞り数値の点滅が止まるまで  を回してシャッター速度を遅くしてください。



- 使用レンズの一番大きな絞り数値（最小口径／最小絞り）が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。絞り数値の点滅が止まるまで  を回してシャッター速度を速くしてください。



### シャッター速度の表示

- シャッター速度は1/2段ステップで設定することができます。表示されたシャッター速度の「2000」から「2」までは分数の分母を表しています。例えば、「125」は1/125秒を表しています。また、「0.7」は0.7秒を、「15」は15秒を表しています。

2000	1500	1000	750	500	350	250	180	125				
90	60	45	30	20	15	10	8	6	4	3	2	0.7
1"	1.5"	2"	3"	4"	6"	8"	10"	15"	20"	30"		

- テレビ画面をきれいに撮影するには、シャッター速度を1/15秒にします。

# Av: 絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが適正露出に必要なシャッター速度を自動的に設定します。これを絞り優先AEといいます。

絞り数値を小さくする(絞りを開く)と、背景をぼかした美しいポートレート写真が撮れます。絞り数値を小さくするほど背景はぼけます。絞り数値を大きくする(絞りを閉じる)と、奥行きのある風景の手前から遠くまでが鮮明に写ります。絞り数値を大きくするほど鮮明に写る範囲が広がります。

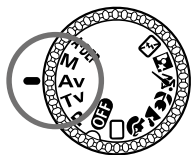
\*Avは、Aperture value (アパチャーバリュー)の略で開口量のことです。



小さい絞り数値



大きい絞り数値



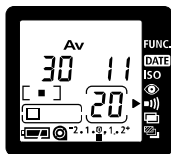
## 1 モードダイヤルを<Av>にする

## 2 絞り数値を設定する

- 表示パネルを見ながら<Fn>を回して設定します。

## 3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ シャッター速度が自動的に決まります。





30 11 -2.1, 1.1, 2\*

## 4 表示を確認して撮影する

- シャッター速度が点滅していなければ適正露出です。



- シャッター速度の「30"」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。点滅が止まるまで  を回して絞り数値を小さくしてください。
- シャッター速度の「2000」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで  を回して絞り数値を大きくしてください。

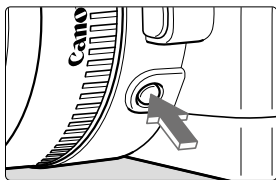


### 絞り数値の表示

絞り数値は1/2段ステップで設定することができます。数字が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。

1.0	1.2	1.4	1.8	2.0	2.5	2.8	3.5	4.0	4.5	5.6
6.7	8.0	9.5	11	13	16	19	22	27	32	38
45	54	64	76	91						

## 被写界深度を確認する



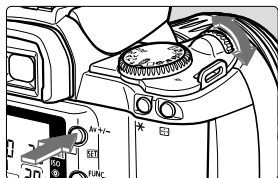
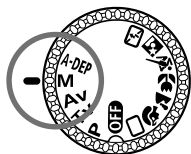
絞り込みボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値まで絞り込み、ピントの合っている範囲をファインダーで確認することができます。







- 応用撮影ゾーンで機能します。
- 絞り込みボタンを押すと、露出が固定された(AEロック)状態になります。
- <A-DEP>では、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、半押ししたまま絞り込みボタンを押してください。

# M:自分で露出を決めて撮る

カメラまかせではなく自分でシャッター速度と絞り数値を決めて撮影するときに設定します。シャッター速度と絞り数値の適切な組み合わせは、露出レベルで確認します。なお、〈M〉撮影時は自動的に中央部重点平均測光になります。\*Mは、Manual(マニュアル)の略です。



- 1 モードダイヤルを〈M〉にする
- 2 シャッター速度と絞り数値を設定する
  - シャッター速度を設定するときには〈〉を回します。
  - 絞り数値を設定するときには〈Av +/-〉を押しながらく〉を回します。
- 3 ピントを合わせる
  - シャッターボタンを半押しします。
  - ➡ ファインダー内と表示パネルに露出レベルが表示されます。
  - 露出レベルマーク〈〉で、標準露出からどのくらいずれているか確認することができます。
- 4 露出を決めて撮影する
  - 露出レベルを確認し、任意のシャッター速度、絞り数値を設定します。
  - 露出レベルマーク〈〉が〈2+〉または〈-2〉の位置で点滅しているときは、露出が〈2+〉または〈-2〉を超えていることを示しています。

標準露出      -2.1, ▽, 1.2+

: 露出を決めるときの基準です。

露出オーバー      -2.1, ▽, 1.2+

: シャッター速度を速くするか、絞り数値を大きくします。

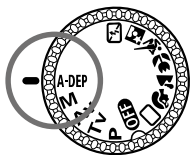
露出アンダー      -2.1, ▽, 1.2+

: シャッター速度を遅くするか、絞り数値を小さくします。

# A-DEP:ピントの合う範囲を決めて撮る

たくさんの人で記念写真を撮ったり風景写真を撮るとき、自動的に近くから遠くまでピントを合わせて鮮明な写真を撮ることができます。7つのAFフレームでとらえた被写体のうち、近いところから遠いところまで鮮明に写ります。

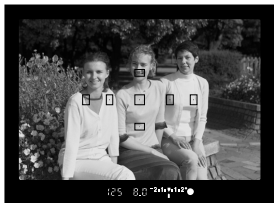
\*A-DEPは、Auto-Depth of field (オートデプスオブフィールド)の略で自動深度優先AEのことです。



## 1 モードダイヤルを〈A-DEP〉にする

## 2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせてシャッターボタンを半押しします。
- 一瞬赤く光ったAFフレームのすべてにピントが合います。
- ファインダー内に露出が表示されている状態で絞り込みボタンを押すと、ピントの合う範囲を事前に確認することができます。(→41)



## 3 表示を確認して撮影する

- 2の場合、左手前の被写体から、右奥の被写体までが鮮明に写ります。

⚠ レンズのフォーカスモードスイッチが〈MF〉(または〈M〉)になっていると、〈A-DEP〉撮影できません。

- 絞り数値が点滅したときは、露出は合っていますが、希望したピントの深さが得られません。レンズを広角にするか、被写体から離れてやりなおしてください。
- シャッター速度や絞り数値を自由に変更することはできません。遅いシャッター速度が設定されることがありますので、三脚の使用をおすすめします。
- ストロボを使用したときは、〈P〉のストロボ撮影と同じ結果になります。

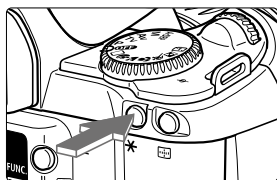
## ＊露出を固定して撮る／AEロック撮影

選択したAFフレームで露出とピントを別々に決めることができます。最初に露出を決めたあとで構図を変える必要がある撮影にご利用ください。これをAEロック撮影といいます。逆光下での撮影などに有効です。なお、AEロック撮影時は自動的に部分測光（→35）になります。



### 1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しし、そのままの状態ですら手順2、3の操作を行います。（※4）



### 2 露出を合わせたい被写体をファインダーの中央においてく＊ボタンを押す（※4）

- ➡ファインダー内にく＊が点灯します。
- ➡露出が固定（AEロック）されます。
- く＊ボタンを押し直すたびに、そのときの露出をAEロックします。



### 3 構図を決めて撮影する

- 連続してAEロック撮影をする場合は、く＊ボタンを押しながら、シャッターボタンを押してください。



# Av +/-:自分の好みに露出を補正する


カメラが決めた標準的な露出を、意図的に変えることを露出補正といいます。写真を明るめ(プラス補正)にする、あるいは暗め(マイナス補正)にするとときに利用します。補正量は1/2段ステップ±2段の範囲です。

## 1 モードダイヤルを〈M〉以外の応用撮影ゾーンにする

## 2 露出表示を確認する

- シャッターボタンを半押しして表示を確認します。

## 3 補正量を設定する

- 〈Av +/-〉ボタンを押しながら  を回して設定します。(Ⓐ)
- 「+」はプラス補正、「-」はマイナス補正を示します。

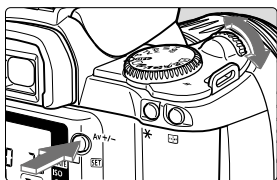
-2.1.0.1.2+

マイナス補正

プラス補正

- 設定した補正量はモードダイヤルを〈OFF〉にしても記憶されています。
- 露出補正を解除するときには、補正量を標準露出指標〈0〉の位置に戻します。

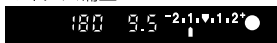
## 4 撮影する



プラス補正



マイナス補正

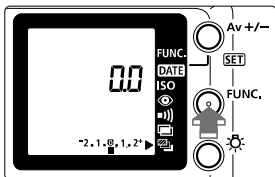


- モードダイヤルを単撮影ゾーンにすると、露出補正は自動的に解除されます。
- シャッター速度1/125秒、絞り数値5.6が適正露出のとき、露出レベルで1段の補正をするということは、シャッター速度、絞り数値のいずれかを以下のように変更することと同じです。

	-1段 ← 0 → +1段
シャッター速度なら	250 ← 125 → 60
絞り数値なら	8.0 ← 5.6 → 4.0

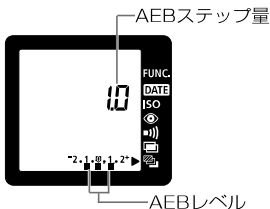
## 露出を自動的に変えて撮る/AEB撮影

1/2段ステップ±2段の範囲で、自動的に露出を変えながら3コマの写真を撮影することができます。これをAEB (Auto Exposure Bracketing) 撮影といいます。



### 1 <▶>マークを<☒>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(06)



### 2 AEBステップ量を設定する

- <☒>を回して設定します。
- ➡ 表示パネルにAEBステップ量とAEBレベル<■>が表示されます。
- 図は標準露出を中心に1段補正したときの表示です。

-2.1.0.1.2+ : 標準露出

-2.1.0.1.2+ : マイナス補正

-2.1.0.1.2+ : プラス補正

### 3 撮影する

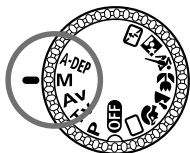
- ➡ 表示パネルとファインダー内の露出レベルに、撮影順に補正位置が表示されます。
- 設定されている巻き上げモード(→35)に従って撮影されます。
- 3コマ撮影後でも、AEB撮影は自動解除されません。解除するときはAEBステップ量を「00」に戻します。

❗ ストロボ撮影およびバルブ撮影との併用はできません。

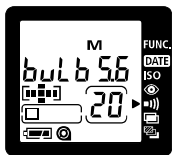
- AEB撮影中は<☒>横の<▶>マークとAEBレベル<■>が点滅します。
- 巻き上げモードが<☒>のときは、3コマ撮影後に自動停止します。
- セルフタイマー/リモコンを使用したときは、自動的に3コマ連続撮影されます。
- AEBと露出補正を組み合わせることで撮影することができます。

# 長時間露光(バルブ)撮影


シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。これをバルブ撮影といいます。夜景や花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。

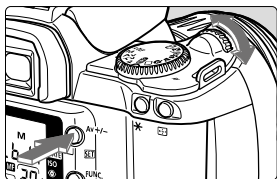


## 1 モードダイヤルを〈M〉にする





## 2 「bulb」に設定する

- 表示パネルを見ながら  を回して「bulb」に設定します。
- 「30''」の次が「bulb」です。



## 3 絞り数値を設定する

-  ボタンを押しながら  を回して、希望する絞り数値を選びます。

## 4 撮影する

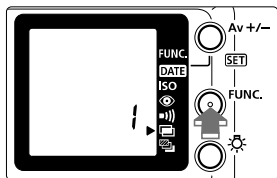
- シャッターボタンを全押しします。
- ➔ 撮影中は表示パネルに「bulb」が点滅します。
- 露光はシャッターボタンを押している間だけ行われます。



- バルブ撮影にはリモートスイッチRS-60E3 (別売)の使用をおすすめします。
- ワイヤレスリモコンでもバルブ撮影ができます。送信ボタンを押すと露光が行われ、もう一度押すと撮影が終了します。
- 新品電池を使用した場合、約4時間(常温)のバルブ撮影ができます。

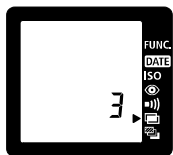
# 多重露出撮影

撮影後フィルムを次のコマに送らず、同じコマで複数回撮影することを多重露出撮影といいます。1度の操作で9回までの多重露出撮影回数を設定することができます。



## 1 <▶>マークを<Ⓛ>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(Ⓛ6)
- ➡フィルムカウンターの位置に「1」が表示されます。



3回の多重露出の場合

## 2 多重露出回数を設定する

- <Ⓒ>を回して設定します。

## 3 撮影する




- ➡設定した多重露出撮影回数の撮影が終了すると、フィルムは自動的に次のコマに巻き上げられ多重露出撮影は自動的に解除されます。

● 多重露出撮影をフィルムの最初と最後の数コマで行うと、フィルムの巻きぐせにより被写体の重なり具合が微妙にずれることがあります。


- 多重露出撮影中は<Ⓛ>横の<▶>マークが点滅します。
- 多重露出撮影を撮影開始前に解除するには、多重露出回数を1に設定します。
- 多重露出撮影の途中で設定を解除するときは、その時点で手順1、2の操作で多重露出回数の表示を空白にします。


# 内蔵ストロボ撮影

## 簡単撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

簡単撮影ゾーン(〈〉、〈〉、〈〉を除く)では、暗いときや日中逆光時に内蔵ストロボが自動的に上がって発光します。

## 応用撮影ゾーンでの内蔵ストロボ撮影

応用撮影ゾーンでは、〈〉ボタンを押して、内蔵ストロボを上げて撮影します。

**P** : カメラまかせのストロボ撮影を行いたいときに選択します。シャッター速度と絞り数値は〈〉(全自動)と同様、自動的に決まります。

**Tv** : 1/90秒以下の任意のシャッター速度を設定したいときに選択します。設定したシャッター速度に対し、カメラの測光で適正露出となる絞り数値が自動設定されます。

**Av** : 任意の絞り数値を設定したいときに選択します。夜景などを背景にした暗い場所では、主被写体も背景も適正露出となる自動スローシンクロナ撮影ができます。主被写体はストロボ光で、背景はスローシャッターによる長秒時露光で標準露出になります。

**M** : シャッター速度も絞り数値も任意に設定したいときに選択します。主被写体は、ストロボ光で適正露出となります。背景の露出は、設定したシャッター速度と絞り数値によって変わります。

**A-DEP** : 〈**P**〉と同じストロボ撮影結果になります。

## ストロボ同調シャッター速度と絞り数値

撮影モード	同調シャッター速度	絞り数値
<b>P</b>	1/90秒にシャッター速度が自動設定されます。	TTLプログラムによる調光絞り数値が自動設定されます。
<b>Tv</b>	1/90秒以下の任意のシャッター速度を手動で設定します。*	設定したシャッター速度に対し、明るさに応じた絞り数値が自動設定されます。
<b>Av</b>	設定した絞り数値に対し、明るさに応じたシャッター速度(30"~1/90秒)が自動設定されます。	任意の絞り数値を手動で設定します。
<b>M</b>	1/90秒以下の任意のシャッター速度を手動で設定します。*	

\* 1/90秒以上に設定した場合は、自動的に1/90秒に設定されます。

## 内蔵ストロボ撮影

### 内蔵ストロボの届く距離 (EF28-90mm F4-5.6使用時)

[m]

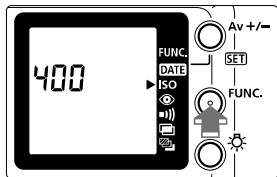
ISO	28mm		90mm	
	ネガ	リバーサル	ネガ	リバーサル
100	1~4.2	1~3.0	1~3.0	1~2.1
400	1~8.5	1.2~6.0	1~6.0	1~4.3

- 被写体との距離が1m以内で内蔵ストロボ撮影すると、画面の一部が欠け(ケラレ)て暗い写真になります。1m以上離れて撮影してください。
- レンズフードを付けたまま内蔵ストロボを使用すると、フードでストロボの光がケラれてしまいます。必ずフードを外してから撮影してください。
- 超望遠レンズ、大口径レンズを使用すると、内蔵ストロボの光がケラれることがあります。

- 内蔵ストロボを収納するときは、指で押し下げます。
- 内蔵ストロボの照射角の広角側限界は、焦点距離28mmまでです。
- より大光量が必要な場合は、EOS専用外部ストロボ(別売)をおすすめします。

## ISO:フィルム感度の手動設定

DXコードが付いていないフィルムを使用する場合、またはフィルムに記載されている感度とは異なる感度を設定する場合は、フィルムを装填してから次のようにします。設定できるフィルム感度の範囲は、ISO 6~6400です。

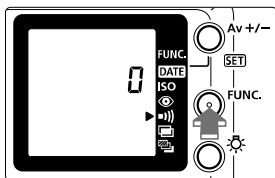


- 1 <▶>マークを<ISO>に合わせる
  - 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(☉6)
  - ➡ 設定されているフィルム感度が表示されます。
- 2 フィルム感度を設定する
  - <☉>を回して設定します。

- フィルム感度を手動で設定しても、DXコードが付いているフィルムに入れ換えると、手動で設定した数値は解除されます。

## 🔊 カメラの電子音を消す

すべての撮影モードで電子音を鳴らないようにすることができます。



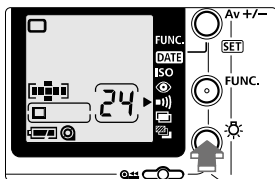
### 1 <▶>マークを<🔊>に合わせる

- 表示パネルを見ながら<FUNC.>ボタンを押して設定します。(🔊6)

### 2 表示を「🔊」にする

- <🔊>を回して設定します。
- 電子音を鳴らすときは、「🔊」に設定します。

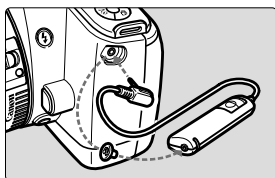
## ☀ 表示パネルを照明する



### 表示パネルを照明する

- <☀>ボタンを押します。(🔊6)
- もう一度<☀>ボタンを押すか、シャッターボタンを半押しすると、消灯します。
- 表示パネルが照明されている間に各種ボタン（シャッターボタンを除く）・ダイヤルを操作すると、照明時間が延長されます。

## リモートスイッチを使って撮る



リモートスイッチRS-60E3（別売）のプラグをリモコン端子に差し込み、シャッターボタンを押して撮影します。

## 写真の基本用語解説

### 露出

写真を撮るためにフィルムに光を当てることを露出(または露光)といいます。また、フィルム感度に応じた適切な光を当てることを適正露出といいます。露出は「シャッター速度」と「絞り数値」の組み合わせで調整します。

### シャッター速度

カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムに当たる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調整します。このシャッターの開いている時間の長さをシャッター速度といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示されるシャッター速度は、「**2000**」(1/2000秒)～「**30''**」(30秒)、「**bulb**」(バルブ)となっています。

### 絞り数値

レンズに組み込まれている絞りは開口部を開けたり閉じたりして、フィルムに当たる光の量を調整します。この開口部の大きさを表した数字(焦点距離÷開口径)を絞り数値といいます。このカメラの表示パネルやファインダー内に表示される絞り数値は、カメラに取り付けたレンズの種類によって異なりますが、「**f10**」～「**f11**」となっています。

### フィルム感度 (ISO値)

フィルム感度は、フィルムがどのくらいの光にまで感応するかを示すものです。感度はISO (International Standardization Organization/国際標準化機構) で定めた数値で表示されています。数値が大きくなるほど、光に対する感度が高くなり、ISO400以上の高感度フィルムでは比較的暗いところでも写真が写るようになります。このカメラの表示パネルに表示されるフィルム感度は、「**6**」～「**6400**」となっています。

### 被写界深度

ピントを合わせた被写体を中心にして前後にもピントが合っている範囲があります。この範囲のことを被写界深度といい、絞り数値を大きくする(絞りを閉じる/小口径絞り)ほどピントの合っている範囲が前後に広くなります。これを被写界深度が深くなるといいます。逆に絞り数値を小さくする(絞りを開く/大口径絞り)とピントの合う範囲が狭くなります。これを被写界深度が浅くなるといいます。(→40)



## 露出警告表示一覧表

撮影モード	表示警告例(点滅)	意味	対応
P		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。
Tv		露出アンダーになります。	◀▶を回してシャッター速度を遅くしてください。
		露出オーバーになります。	◀▶を回してシャッター速度を速くしてください。
Av		露出アンダーになります。	◀▶を回して絞り数値を小さくしてください。
		露出オーバーになります。	◀▶を回して絞り数値を大きくしてください。
A-DEP		希望する被写界深度が得られません。	1) 被写体からできるだけ離れて再度操作してください。 2) ズームレンズを使用している場合は、広角側にしてください。
		被写体が暗すぎます。	ストロボを使用してください。撮影結果は◀P▶によるストロボ撮影と同じになります。
		被写体が明るすぎます。	減光用のNDフィルターを使用してください。

警告表示例は、使用するレンズの最小絞り数値がF4.0、最大絞り数値がF22のときの表示例です。使用するレンズによって、最小絞り数値、最大絞り数値が異なります。

## 撮影機能組み合わせ一覧

モードダイヤル									P	Tv	Av	M	A-DEP	
AF	ワンショット		●	●	●		●						●	
	AIサーボ						●							
	AIフォーカス	●						●	●	●	●	●		
	AFフレーム 選択	自動	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	●
		手動								○	○	○	○	
AF補助光	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	
フィルム巻き上げ	1枚撮影	●		●	●		●	●	○	○	○	○	○	
	連続撮影		●			●			○	○	○	○	○	
	セルフリモコン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
測光方式	評価測光	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	
	部分測光								(●)	(●)	(●)	(●)	(●)	
	中央部重点平均測光											●		
内蔵トランプ	自動発光	●	●		●		●							
	常時発光								○	○	○	○	○	
プログラムシフト									○					
露出補正									○	○	○		○	
AEロック									○	○	○	○	○	
被写界深度確認									○	○	○	○	○	
ファンクション	デート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	ISO感度								○	○	○	○	○	
	赤目緩和	○	○		○		○		○	○	○	○	○	
	電子音	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	
	多重露出								○	○	○	○	○	
	AEB								○	○	○	○	○	

●：自動設定 (●)：AEロック時自動設定 ○：選択可能または設定可能

## AFモードについて

### ワンショットAF

被写体にピントが合うと同時に露出が決まり、ピントが固定されます。ピントが合うまでシャッターは切れません。

### AIサーボAF

動いている被写体を撮影するのに適しています。被写体の動きに合わせて、シャッターが切れるときのピント位置を予測しながら連続してピントを合わせ続けます。露出はシャッターが切れる瞬間に決まります。

### AIフォーカスAF

シャッターボタンを押したときの被写体の動きによってAFの方式（ワンショットAF、AIサーボAF）を自動的に切り換えます。

## AFモードとフィルム巻き上げの関係

フィルム巻き上げ	ワンショットAF	AIサーボAF
1枚撮影	ピント合わせが終わるまでは撮影できません。ピントが合うと同時にピントを固定します。評価測光で露出を固定します（撮影前に露出の値を記憶）。	被写体の動きに合わせてピントを合わせ続けます。露出はシャッターが切れる瞬間に決まります。
連続撮影	上と同じ条件で連続撮影になります（1秒間に最高約2.5コマ）。	上と同じ条件で連続撮影になります。ピント合わせは連続撮影中も作動します（1秒間に最高約2.3コマ）。

## 「故障かな？」とお考えになる前に

「カメラが故障したのかな？」と考える前に、次の表を参考にしてカメラをチェックしてみてください。それでも症状に変化がなければ、最寄りのキヤノンサービスセンターにお持ちください。

表示パネルに表示が出ない	<p>電池が消耗している。 ⇒新しい電池に交換する。(→14)</p> <p>電池が逆向きに入っている。 ⇒電池を正しい向きに入れなおす。(→14)</p>
写真がボケて写っている	<p>レンズのフォーカスモードスイッチが<b>MF</b>(または<b>M</b>)になっている。 ⇒<b>AF</b>にする。(→16)</p> <p>シャッターボタンを押すときに手ブレを起こしている。 ⇒シャッターボタンを静かに押す。(→17)</p>
シャッターが切れない	<p>表示パネルにフィルム枚数が表示されない。 ⇒フィルムを正しく入れなおす。(→18)</p> <p>表示パネルに<b>□</b>が点滅している。 ⇒新しい電池に交換する。(→14)</p> <p>巻き戻されたフィルムが入ったままで<b>●</b>が点滅している。 ⇒新しいフィルムに交換する。(→18)</p> <p>ファインダー内の合焦マーク<b>●</b>が点滅してピントが合わない。 ⇒AFフレームの位置を変えてみる。(→32) それでもピントが合わないときは、手動でピントを合わせる。(→34)</p>
表示パネルに <b>□</b> が点滅している	<p>電池容量が極端に少なくなっている。 ⇒新しい電池に交換する。(→14)</p> <p>何らかの理由でカメラが誤作動している。 ⇒シャッターボタンを半押ししてみる。(→17) ⇒一度電池を取り出してから、再度入れなおしてみる。(→14)</p> <p><b>□</b>の点滅が消えない場合は、最寄りのキヤノンサービスセンターにご相談ください。</p>

**!** このカメラにはキヤノンのEOS専用外部ストロボを使用されることをおすすめします。特に他社の特定のカメラ専用とされているストロボ（ホットシューに複数の接点を持つ）、高圧タイプのストロボおよびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。

## 主な仕様

### ■型式

型式	35mm一眼レフレックスAF・AEカメラ (ワインダー・ストロボ内蔵)
記録媒体	35mmフィルム
画面サイズ	24×36mm
使用レンズ	キヤノンEFレンズ群
レンズマウント	キヤノンEFマウント(完全電子制御式)

### ■ファインダー

方式	ペンタダハミラー使用、アイレベル式
視野率	上下左右とも90%
倍率	0.7倍(50mmレンズ・∞・-1dpt)
アイポイント	18.5mm
視度調整範囲	-2.5~+0.5dpt
フォーカシングスクリーン	固定式(ニューレーザーマットスクリーン)
ミラー	クイックリターン式全面ハーフミラー(反射:透過=60:40、ミラー切れ:EF300mm F2.8L+エクステンダー2×までなし)
ファインダー情報	AF情報(スーパーインポーズ表示、合焦マーク)、露出情報(シャッター速度、絞り数値、露出レベル、露出警告、AEロック)、ストロボ情報(充電完了、ハイスピードシンクロ、FEロック、赤目緩和、連動範囲外警告)
被写界深度確認	絞り込みボタンによる

### ■オートフォーカス

方式	CMOSセンサーによるTTL-CT-SIR方式
測距点	7点
測距輝度範囲	EV1~18(ISO100)
フォーカスモード	ワンショットAF、AIサーボAF、AIフォーカスAF、 手動フォーカス(MF)
AFフレーム選択	自動選択、任意選択
AFフレーム選択表示	ファインダー内スーパーインポーズ表示、 表示パネルAFフレームマークによる
AF補助光	内蔵(ストロボ間欠発光方式) 有効距離:中央部 約4m、周辺部 約3.5m

### ■露出制御

測光方式	35分割TTL開放測光 (1) 評価測光(全ての測距点に連動) (2) 部分測光(ファインダー画面中央の約9.5%、 AEロック時自動設定) (3) 中央部重点平均測光(マニュアル露出時自動設定)
測光範囲	EV1~20(常温・50mm F1.4・ISO100)
露出制御方式	全自動、イメージセレクト6種(ポートレート、風景、クローズアップ、スポーツ、夜景ポートレート、ストロボ発光禁止)、プログラムAE(シフト可能)、シャッター優先AE、絞り優先AE、自動深度優先AE、E-TTL/A-TTL/TTLストロボAE、マニュアル露出
フィルム感度	ISO6~6400 (DXコード対応 ISO25~5000・1/3段ステップ)
露出補正	手動:1/2段ステップ±2段(AEB併用可能) AEB:1/2段ステップ±2段

## 資料

AEロック	自動：ワンショットAF・評価測光時、合焦と同時にAEロック 手動：AEロックボタン押しによる(部分測光)
多重露出	最大予約回数：9回

### ■シャッター

方式	電子制御式・フォーカルプレーンシャッター
シャッター速度	1/2000~30秒(1/2段ステップ)、バルブ、X=1/90秒
レリーズ方式	ソフトタッチ電磁レリーズ
セルフタイマー	10秒後撮影
リモコン	リモートスイッチRS-60E3、 リモートコントローラーRC-5/RC-1対応

### ■ストロボ

内蔵ストロボ	測距点連動・3分割TTL自動調光 GNo.12(ISO100・m) 充電時間：約2秒 照射角：焦点距離28mmの画角に対応 赤目緩和機能：内蔵(ランプ式)
EOS専用外部ストロボ	E-TTL/A-TTL/TTL自動調光

### ■フィルム給送関係

フィルム装填	自動(プリwind式)
巻き上げモード	1枚撮影/連続撮影
連続撮影速度	ワンショットAF時：約2.5コマ/秒 AIサーボAF時：約2.3コマ/秒
フィルムカウンター	逆算式
巻き戻し	自動(途中巻き戻し可能)
プリwind所要時間	約7秒(24EXフィルム)
音圧	約54dB

### ■日付/時刻写し込み

オートデート	2099年まで対応
電源	カメラ本体と共用

### ■電源

電源	CR2リチウム電池 2本
撮影可能フィルム本数	(→15)
バッテリーチェック	自動

■大きさ ..... 130(幅) × 88(高さ) × 64(奥行) mm

■質量 ..... 365g(本体のみ、電池別)

### ■リモートコントローラーRC-5

送信	送信ボタンによる、約2秒後レリーズ
作動距離	約5m以内
電源	CR2032リチウム電池 1個
電池寿命	約6000回
大きさ	64(幅) × 34(高さ) × 6(奥行) mm
質量	8g(本体のみ、電池別)

- ・記載データは全て当社試験基準によります。
- ・製品の仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。

## 索引

## 英数字

AEB.....	46
AEロック.....	44
AF.....	16
AFフレーム.....	32
AFモード.....	55
AIサーボAF.....	55
AIフォーカスAF.....	55
AF補助光.....	23

## あ

アイピースカバー.....	13、30
赤目緩和機能.....	26
1枚撮影.....	35
イメージゾーン.....	12
応用撮影ゾーン.....	12、31

## か

カメラの構え方.....	20
簡単撮影ゾーン.....	12、21

## さ

撮影機能組み合わせ一覧.....	54
視度調整.....	9
絞り数値.....	52
シャッター速度.....	52
シャッターボタン	
半押し.....	17
全押し.....	17
手動ピント合わせ.....	34
スーパーインポーズ.....	11
ストラップ.....	13
ストロボ.....	23
セルフタイマー.....	27
全自動.....	22
測光方式.....	35

## た

多重露出.....	48
長時間露光.....	47
電子音.....	51
電池.....	14

## な

内蔵ストロボ.....	49
-------------	----

## は

被写界深度.....	41、52
日付／時刻.....	29
表示パネル.....	10
照明.....	51
ファインダー内表示.....	11
フィルム	
入れる.....	18
取り出す.....	19
途中巻き戻し.....	20
感度の手動設定.....	50
感度 (ISO値).....	52
フォーカスロック.....	33
プログラムAE.....	36

## ま

モードダイヤル.....	12
--------------	----

## ら

リモートスイッチ.....	51
レンズの取り付け方／取り外し方.....	16
連続撮影.....	35
露出.....	52
補正.....	45

## わ

ワイヤレスリモコン.....	28
ワンショットAF.....	55



この使用説明書は、2002年4月に作成したものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、別紙のご相談窓口にお問い合わせください。

## アフターサービスについて

- 1.保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりはお客様にてご負担願います。
- 2.本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために不可欠な部品）は、日本国内において、製造打ち切り後10年間を目安に保有しています。したがって期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、故障の原因や内容によっては、期間中でも修理が困難な場合と期間後でも修理が可能な場合がありますので、その判定につきましてはお買い上げ店または、別紙の当社ご相談窓口にお問い合わせください。
- 3.修理品をご送付の場合は、見本のフィルムやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示のうえ、十分な梱包でお送りください。

キヤノン株式会社

キヤノン販売株式会社 カメラ販売事業部

〒108-8011 東京都港区三田3-12-15 (東急三田ビル8F)

<http://canon.jp/>